

# Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長：中本高夫 編集責任者：南 順三 印刷所：東京印刷(株)



## ハンサム編集について

第30期の広報紙ハンサムの発行にあたり、周年期間限定ではありますが関係者のご協力によりカラー化することができました。今期の紙面構成は表紙に編集担当会員の想いをこめた写真を掲載していく事と、4面には今年度のテーマである去・来・現をキーワードとしたコーナーを設け、中央会の過去や未来への展望そして現在の様子や想いなどを掲載していきます。写真の多用など、見やすい紙面づくりを心がけてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 表紙写真テーマ

## 家族愛

萬谷会員のお嬢さんが喘息をもちながらジュニアトライアスロンに参加されました。萬谷会員ご夫婦はこの大会に参加することを反対されましたが、お嬢さんの参加意志が非常に固くやむなく承諾。しかし練習するたびに喘息が出て心配はつるばかり…。大会当日、萬谷会員ご夫婦は薬を片手にはりついていましたが、喘息が出ることもなく無事完走！

まさに家族愛が完走に導いた結果となりました。

# 去

今から7年前の平成9年に境港市で「山陰夢みなと博覧会」が開催され、当会も地元で開催されたこの大イベントに協力しようと、博覧会場や鳥取県の紹介をする2時間番組を企画制作し、8月3日全国のCATV局105局ネットで衛星を使用して会場と高知市を結び2元生中継を行い全国に発信しました。

この事業は、企画制作から当日の撮影や運営など全ての面において当会のメンバーが行い、放送当日は気温30度を超える炎天下、じっとしていても流れ出る汗をぬぐい前日からほとんど徹夜状態でしたが、全員が団結してひとつの事にむかい、それを成し遂げるパワーをみな、感じていたのではないのでしょうか。

今まで、やった事のない物にチャレンジする。そして、お互いがお互いの立場を考え行動し、一つの事を成し遂げる。まさに中央会パワーと言えるでしょう。

当会もこの事業をきっかけにメディアに対し、それを今後いかに利用していくかというひとつの転機となった事は言うまでもないでしょう。



# 来

中央会に入会以来、会の将来に不安を覚えたことはあまりなかった様に思います。ただひとつ挙げるとするならば、素晴らしい先輩方が卒会してしまうという不安くらいです？。なんとノーテンキな人間でしょうか。「中央会の将来の構想」について、私には述べることはできないが、『来』に向けて想うことを記したいと思います。

私の会員に対しての基本スタンスというのは、「会員は、会社の代表者であり、お互いに尊敬の念を持たなくてはならない。」ということです。会の秩序と互いの信頼関係は、ここから生まれてくると確信しています。いつの時代でも個性を発揮し、また時代にあったこれまでは異なった事をしようとすると、大きなパワーが必要となります。必然であり、また大切なことです。また提起されて自分が納得していないのにうなずいていては、おそらくは他の会員に説明責任を果たすことはできません。そういった葛藤の場が、役員会であり、委員会なのです。会の根幹とも言えるこれらの会合が疎かになると会全体のモチベーションを上げること、そしてより深い信頼関係を築くことはできません。

年度とともに、頼りとしていた年長者は卒会してしまうが、また新たに優秀な新入会員が入ってきます。この不況の続く中、大いなる期待と向上心をもって入会されるに違いありません。今後よりいっそう会員からも地域からも、さすが西部青年中央会といわれる一本筋の通った会にして行きたいと願っています。

# 現

時折ではあるが私は「何故中央会に、何をしに入会したのか？」と思ひ悩む事がある。始めの頃より今の方が回数的にずっと多い気がする。

5年目も間近になって何を今更？と笑われそうだが、困った事に事実だ。

入会当初は本当に何も考えていなかった。

二人の推薦者に会うまでは「皆生トライアスロン」との関係や、会の存在すら知らなかった程だ。

目的も何も無いのだから、何をすれば良いのかわからない。

ある人の「わからないという事がわからない」という言葉がピッタリだ。

だから「高い会費を払っているのだから、それだけの物を持ち帰らなければいけない」とハッキリ言える他の会員を羨ましく感じた。

今では会の歴史を知り、活動や目的も理解できていると思う。

それまで気にも留めずに利用していたお店や業者の代表者の方々と見知り、直接お話を聞く機会にも恵まれた。

少しずつだが自分の世界観が広がっていく事を嬉しく思う。

今の私にとって中央会と云う存在は、社会に出る為の学び舎として、出発点として大切な場所になっている。

## 9月役員会報告

9月定例役員会が平成16年9月1日(水)、米子食品会館において開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・8月・9月例会の件
- ・会旗の件
- ・その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

## 9月例会案内

と き：平成16年9月15日(水) 18時30分～  
 と ころ：米子コンベンションセンター 第7会議室  
 内 容：みんなで討論しよう「中央会ワークショップ」  
 担 当：人づくり委員会

## お詫び

先月発行しました雄飛に下記の通りの誤植がありました。この場を借りて訂正させていただくとともに深くお詫びいたします。

- (4ページ) <誤>平山副知事 <正>平井副知事
- (5ページ) <誤>大山送迎太鼓保存会 <正>大山僧兵太鼓保存会
- (8ページ) <誤>鳥取県中小企業団体青年中央会 <正>鳥取県中小企業青年中央会

## コピーをして名簿にお貼り下さい

(国際交流)



**松本 誠二** A型  
 (有)スバル代行 取締役社長  
 運転代行業  
 〒683-0804 米子市米原9-11-18  
 TEL 34-2482 FAX 34-0024

H 16.8 入会  
 (推薦者) 高橋(隆) 門脇(幸)  
 (自宅)米子市米原7-11-18 コーポムンライト106号  
 〒683-0804 S49.8.13

**<コメント>**  
 このたび、8月に入会させていただきました(有)スバル代行の松本誠二です。先日は初めての例会にも参加いただきましたが、先輩のみなさんの光あふれるまなざしにまず圧倒され、私自身もたいへん気のひきまいるおもいでした。浅学にして非力なため、いたらぬ点も多々あるとおもいますが、これから中央会のさらなる発展のために精一杯はげんでいこうとおもいますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 今月のワンショット

第10回のジュニアトライアスロンでの萬谷会員とお嬢様の姿を掲示させて頂きました。お嬢様の体調が万全の状態でなかった事もあり、順位は二の次。その中で、萬谷会員と奥様の心のこもった声援が彼女を見事完走に導いた。

その素晴らしい家族愛と感動に思い出の1枚を収めさせていただきました。

石田考一



## おめでとうございます

### 御誕生

岩崎康朗会員  
 7月27日 長男 巧くん

### 新店舗開店

原口達志会員 ムーラン ルージュ  
 米子市朝日町25番地 YOKOYAMAビルⅡ  
 TEL 0859-35-3678

# 8月例会報告

8月19日、米子全日空ホテルにおいて、役員による8月度例会が開催された。中本会長の、熱い想いのこもった挨拶のあと、新入会員の松本氏にバッジが授与された。委員長タイムでは、会員拡大特別委員会の高橋委員長が、「中央会を紹介することによって逆に中央会を詳しく知ることが出来た」と会員拡大への協力を語り、国際交流委員会の野口委員長は、自分が経験された若い頃からの国際交流の思い出を基に、国際交流について、3つの壁があり、それは、言葉・制度・心だと語られた。



今回は講師に、有限会社 ライトウェイ代表取締役 濱田 昇（はまだ・のぼる）氏を招き、「景気が悪いのは不景気のせいですか？」という演題で講演をしていただいた。中央会の会員とも交流があり、笑いを交えて軽快なテンポで講演が進んだ。ISOコンサルとマーケティングコンサルで得た知識を、通常有料セミナーでしか話さないような内容まで踏込んだ。実は筆者も前日行われた有料セミナーに参加していたのだが、それに比べると若干優しい内容ではあったが、興味深い講演だった。

特に負け組の条件①ライバル企業ばかり見て客を見ない ②毎年同じ愚痴を言っている ③よい商品があれば売れるとおもっている ④日々考えているつもりで、アイデアとなっていない ということに関して、はっとさせられる部分が多かった。

また勝ち組の条件では、特に「非常識な方法を実行する」というところが気になりました。どうしても失敗を恐れるあまり誰もが在り来りの手段をとってしまうが、成功している人の多くは傍から見れば危険な行いをしているように見えるが、成功するのだそうだ。非常識=誰もしない という観点より、同じことをしていても競争に勝てないとのべられた。

最後に、ビジネス書に頼るのもいいが、こういう講演を機に自分だけに頼らず、多方面より情報を得て模索し判断していく、というの必要ではないか、と思った。



## 8月度委員会報告

### 総務委員会

平成16年8月10日(火) 於:海潮園 出席者/13名  
議題/30周年記念事業反省会及び年間スケジュールについて

1. 年間スケジュールの確認及び担当者の振り分け
2. 10月のOB交流会について打ち合わせ
3. 提案書についての意見交換
4. 県青年中央会会旗について意見交換
5. 30周年記念事業の反省

- ・企業訪問、現場視察
  - ・経営者の本音がききたい
  - ・会計部分を突き詰めて知りたい 等
- 社是、社訓より経営理念を各委員より発表してもらう

### メディア・コミュニケーション委員会

平成16年8月5日(木) 於:ホールサムインかいけ 出席者/10名  
議題/ハンサム制作の件

1. ハンサム制作について
2. メディア全国大会参加の件
3. 会員拡大について

役員会報告、30周年事業・皆生トライアスロンの反省、会旗・提案書についての意見交換、その他

### 政治行政委員会

平成16年8月4日(水) 於:ホールサムインかいけ 出席者/10名  
議題/米子市の財政について

米子市財政課より資料提供を頂いた内容を検討したかったが、時間の都合上、次回までに各自検討してくるよう宿題とした。(内容:財政構造改革について、現在の財政状況について、これまでの仕組みについて、これからの展望について、など)  
役員会報告、30周年事業・皆生トライアスロンの反省、会旗・提案書についての意見交換、その他

### 人づくり委員会

平成16年8月9日(月) 於:大連 出席者/12名  
議題/9月担当例会内容詳細検討

提言内容に関するものを取り上げる事によって、提言内容を理解して欲しい。入会年度の若い方にも積極的に意見を出して頂けるように、ワークショップ方式のグループ討論が良いのではないかと。提言内容を扱う事で、提言部の出した内容と違うものにならないかと危惧されるが、例会は自由意見の場と言う事での了承頂く。また、人づくり委員会のメンバーが調整役に入る事によって、まとめるようにする事が可能ではないか。臨時委員会を開き、メンバーが実際に討論会を体験し、例会に備える事とする。

### 国際交流委員会

平成16年8月4日(水) 於:米子ニューアバンホテル 出席者/11名  
議題/文化の違う交流  
講演/演題:「文化の違う交流」

講師:国際交流財団米子事務所 定光 香氏  
ディスカッション形式で、各委員の異文化を語り、言葉を使用しない状況下での外国人の気持ちを理解する為にはどうすべきかを、議論した。  
役員会報告、30周年周年事業、皆生トライアスロンの反省、会旗・提案書についての意見交換、その他

### まちづくり委員会

平成16年8月9日(月) 於:ホールサムインかいけ 出席者/11名  
議題/財政再建団体について

湯原会員より鳥取県内の市町村の財政状況、将来にわたる実質的な財政負担等を、さまざまな角度から資料をもとに説明を受け委員会にて検証した。

委員会で検証した結果、境港市に注目することになった。境港市は、空港、港湾、漁港、など他の都市にはない特性がある。中海圏域「境港市、米子市、松江市、安来市」が連携を取りながら取り組めば必ず素晴らしい「まち」が出来上がるはずである。いずれにおいても、境港市が玄関口になるべきである。このことを踏まえ提言していくことで話し合いを終えた。

### エコチャレンジ2004委員会

平成16年8月6日(金) 於:いりこ家 出席者/8名  
議題/年間方針と内容

1年間の方針発表と内容についての発表が行われた。重点目標としては、『水質浄化と産業廃棄物について』を主にボランティアをからめた活動を行う。水質浄化については、EM菌をもちいて、個人レベルでの重要性を認識していただき、使用していただくことがポイントになるため、まず、委員会として、EM菌についての研究をし、知識をつけたうえでボランティアとして地域に訴えていく活動を行う事とした。

### 経営委員会

平成16年8月5日(木) 於:米子食品会館 出席者/11名  
議題/「行政等の助成金、支援制度の利用方法について」

委員会の中で何をやりたいのか  
(各委員より出された活発な意見は次の通り)  
・経営者から話を聞きたい

### 会員拡大特別委員会

平成16年8月23日(月) 於:ホテルサンルート米子 出席者/11名  
議題/会員拡大の件

各委員がそれぞれの所属委員会より収集した新入会員情報を報告した。報告された情報は門脇副委員長が取りまとめ、それぞれの所属委員会に持ち帰りさらなる情報を収集する。  
・OB企業の中で会員がいらない会社を訪問する。  
・会社訪問用で会員名簿を準備していただきたい。  
→訪問先で会員名簿を見せていただきたいと言われるため。  
・原則として必ず、各委員会から1名は出席する。  
→出席できない場合は代役に出席していただく。  
など活発な意見交換がおこなわれた。

# 第10回オールジャパン ジュニアトライアスロン in 岸本

8月22日（日）、第10回オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本大会が、大山を望む岸本町総合運動公園において開催された。

A・B・C・Dクラスに分かれた315名のちびっこアスリート達は、家族やスタッフからの熱い声援を背に、自分自身の目標に向かってスイム・バイク・ランの鉄人レースにチャレンジしていた。練習の成果を発揮できた選手、プレッシャーで実力を出せなかった選手、それぞれの選手たちが、今までの苦しさが嘘のように「やり遂げた」という充実感につつまれながら、次々とゴールテープを切っていった。

全員完走後は数々のショーも行われ、閉会式を迎えるまでおおいに盛り上がり、ちびっこアスリート達はまた来年のチャレンジを誓い会場を後にしていった。



## ジュニトラに参加して

福庭 貴志

私の担当はA S、小学校Aクラス（1・2年生）の部から競技が開始された。自分としては、慣れた手つきでスポンジと飲み物を渡しているつもりだったが、子どもたちは、それを断れず、しかたなく受け取っていたようだ。Bクラス（3・4年生）になるとさすがにスポンジの使い方がさまになってきた。Cクラス（5・6年生）になるとまさしくアスリートである。最後までテンションを維持できたのは彼（彼女）らにエネルギーを貰ったからに違いない。

石川 達也

今回、初めてジュニアトライアスロンに参加させてもらいました。岸本町でこの大会が行われている事は知っていましたが、小規模な大会と思っていたので参加人数の多さには驚きました。

当日は食糧部で弁当配布でしたので、実際に競技を見ることができず残念でしたが、競技前に士気を高め真剣な眼差をしている子ども達、競技を終えて完走メダルを首にかけ満面の笑顔の子ども達の色々な表情を見ると、疲れも吹っ飛び充実感を得る事が出来ました。

貴重な体験が出来、今後も率先して参加していこうと思います。最後に大会スタッフ・ボランティアの方々 お疲れ様でした。

## オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本大会とは

南 順三

今からさかのぼること11年前、全日本トライアスロン皆生大会の一週間前に、小学生を対象とした「皆生ちびっこトライアスロン」が開催されていましたが、第10回大会を最後に諸般の事情により10年の歴史に幕を閉じてしまいました。

平成6年度地域交流委員会は、このちびっこトライアスロンを復活させることが、児童の健全育成と、開催地域活性化の起爆剤になりうるという思いからシミュレーションを行なうこととなりました。

まずは、鳥取県西部地区の小学生4・5・6年生を対象にトライアスロンに対する意識調査を行い、約6000名の回答を得ることができました。ちびっこトライアスロンの認知度、再開した場合の参加意志を確認して行く中で、意を強くしていったわけです。

会場候補地として陸上自衛隊、東山運動公園、そして、当時まだ完成せぬ岸本町総合運動公園がありました。施設の青写真を基に協議を重ね、開催可能な会場を岸本町総合運動公園とし、オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本大会企画案を作成。委員会は運営・実務面の検討に移っていきました。

岸本町より開催したい旨の打診を受け、中央会役員会において、町への早期移管と大会への人材派遣という条件付きの形で許可を得ることができ、町とともに平成7年8月20日、13府県から153名の選手を迎え、第1回オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本大会を大成功で終えることができました。ゼロからのスタートにもかかわらず、委員会メンバー一人ひとりのパワーの結集と、青年中央会の会員の皆さんの絶大な協力に支えられた大会でありました。

その後、岸本町へ移管しながら改善を重ね、大会も年々グレードアップし、よりスムーズな運営となってまいりました。今年は過去最多の315名の選手の参加を迎えるまでに成長し、10回記念大会を無事終了いたしましたことを大変感謝いたします。

この10年を省みて、委員会活動の集大成として実践の場を与えていただいたこの大会が、トライアスロンというスポーツを通して児童の健全育成と、みどりと清流のまち岸本町のまちづくりに十分貢献できていると思うのです。このことを考えれば、今後の青年中央会の協力体制を再検討してもいい時期に来ているのかなと感じているところでもあります。

## 10周年記念大会を終えて

オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本大会実行委員長・岸本町教育長 妹尾千秋



地元をはじめ全国各地から過去最多の315名という選手の皆さんにご参加を頂き、第10回の記念大会を成功裏に終えることができました。これも偏に青年中央会の皆様をはじめ、関係者の皆様方のご支援ご協力の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。

急速に進む少子化の中で、記念大会とは言え、これだけの参加者を得たことは、まさに快挙であると喜んでおります。

少し大袈裟な物言いになりますが、「ローマは一日にしてならず」。これまでの10年間、大会関係者の並々ならぬご努力によって、この岸本大会が、「いい評判」を取ってきた結果だろうと思っております。

子ども達は、「とりあえず完走をめざす」「優勝をめざす」さらには、「皆生トライアスロン大会やオリンピック出場」へと様々な夢を抱いて大会に臨んでおります。「評判がいい」というのは、この大会が、子ども達のどの夢にも十分にこたえられる大会へと発展を続けた結果だろうと意を強くしているところでございます。

また、一般公募のボランティアの方の評判も良くなって参りました。多くの方に大会を心待ちにして頂いております。歯を食いしばって限界に挑戦している子ども達の姿に感動を覚えて帰って頂いております。

改めて申し上げますまでもなく、青年中央会の皆様方には、筆舌に尽くしがたいほどお世話になっております。10年前、ジュニアの大会を岸本町が引き受けさせて頂きましてより、トライアスロンの『いろは』から辛抱強く懇切丁寧にご指導賜りました。お蔭様で第10回大会、すばらしい大会であったと思っております。レベルの高い大会運営をして頂いたと有り難く思っております。中央会の皆さんには、随所に専門的な立場から適切なご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。

本来ならば、大会も10回を重ねましたので、岸本町が立ちを中央会の皆さんには、フリーな立場でご協力頂くのが筋だとは思っております。しかしながら、合併に伴って職員体制の変わる狭間にもありますし、今や、失敗の許されない大会となって参りました。今しばらく、これまでのような体制で、ご協力を賜ればと存じます。ご無理を申し上げますが宜しくお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、青年中央会の益々のご発展をお祈り申し上げ、お願いの方々お礼の言葉とさせていただきます。